
誰のモノ？

慧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰のモノ？

【Nコード】

N0762N

【作者名】

慧

【あらすじ】

ユウは、今年27の社会人。年下の彼氏がいる。ある日会社の飲み会に、彼氏が参加することになって…？

(前書き)

ユウは、今年27の社会人。年下の彼氏がいる。ある日会社の飲み会に、彼氏が参加することになって…？

(彼氏に関西弁を使わしています。不自然な点があるかと思いますが、ご容赦ください。)

わたしの彼氏は、ハルカと言う可愛い茶髪の年下の男の子。
ふわふわした癖毛の、思わず撫でたくなってしまような細目の男の子。

困った顔を見ると、目尻が下がって細い目が見えなくなってしまう。
その顔が可愛くて、わたしもイタズラをしかけてしまうことは……
よくちよくちある。

まあ、だからあなた達の気持ちも、わからないでもない。

週末の居酒屋。

会社の暑気払いと名前の付いた、ただの飲み会。

終電がなくなるぐらいの時間になっても飲んでるのは、明日が休みだからみんな気が大きくなっているからだと思う。

「ハルさんかーわーいー！」

後輩の女子が、ハルカの頭を撫で回す。

ハルカは困ったような笑顔で、それを受け止めていた。

ハルカとは、週末に一緒に過ごすことを約束していた。

ふたつ下の可愛い男の子は、週末の飲み会の予定を伝えると「遅くなるやる。仕事終わったら迎えに行くわ。」と言ってニコニコ笑った。

そして、約束通り迎えに来てくれたハルカは、目ざとく見つけた後

輩女子に引きずり込まれて、わたしの会社の飲み会に参加しているのだ。

『彼女』の会社の人だから、愛想を振りまいてくれている。

そんなの、わかっている。

大人だもの、同じ立場になったらわたしだってそうする。

でも、心のむかつきは押さえられない。

「ハルさんはー、年いくつですかあ？」

「25ですよ。」

「あたしの2個上なんですねー！」

「えー！見えない！なんか可愛いし若く見えますう。」

後輩の女子に絡まれて、ぺたぺた触られて。

逃げることもできず、困った笑顔でただ受け止めるだけのハルカに、いらいらしてしまう。

近くで飲んでいた同期の慰めるような目にも、いらつきを煽られてしまう。

ああ、冷えたビールを飲んでも、全然熱が下らない。

「おい、お前飲みすぎじゃないか。」

同期の声が、遠くに聞こえる。

やだ、ほんとに飲み過ぎた、かも。

「もーユウさん飲み過ぎやん。すんません、俺連れて帰りますう。」

くらくらした体を、馴染みの熱が受け止める。
素早く近くにあったわたしのカバンを持って、自分の財布からお札を渡しているのが横目で見える。

もう力が入らない体を、慣れたように支えながら挨拶をしているのが、遠くのように聞こえた。

ゆらゆら。ゆらゆら。

暑いはずなのに、不快じゃない熱に背負われて、ハルカの家に向かっている。

「ハルカ。」

「はい。」

「何で歩いて帰ってるの。一駅ぐらいあるのに。タクシー使えば。」

「タクシー代さっき置いてきてもうたもん。」

「飲み代なんて、週明け払えばよかったのに。」 「男の見栄はらし
てーよ、ユウさん。彼女の飲み代ぐらい、払いたいもんやの。それ
に。」

ハルカが笑ってるのが、背中を通して伝わる。

「それに？」

「ユウさんおんぶって、気持ちええわ。ユウさんをめっちゃめっちゃ甘
やかしてる感じがして。」

「…ばか。そんな、甘やかすって。」 じわじわっと、アルコールの
せいでも夏のせいでもない熱が上がってく。

飲み会で感じたとげとげすた気持ちちが、あっという間に丸くされて
しまう。

わたしはこんなに彼氏に気持ちを動かされる女だったろうか。

「ええやん。あとな、もひとつ特典あんねん。」

「なに？」

「俺の頭なで放題やで。ユウさん、頭なでるの好きやろ？」

ほんとに。

年下の可愛い男の子だと思ってる、気付くところらの気持ちを見通して。

目の前にあるふわふわの頭に手を伸ばすと、また笑ったのか背中が揺れる。

「ユウさん、ハゲても俺を好きでいてな？」

「…それはどうかしら。」

えー！と悲鳴をあげる首に抱きついて、心地よい揺れに身を任せる。優しい睡魔に誘われて、今日はハルカに甘えてしまおう。

可愛い可愛い年下の男の子に。

「甘やかして甘やかして、俺からは離れられんようにべたべたに甘やかしたるから、もっともっと、俺に依存したらええ。な、ユウさん。」

わたしはすっかり幸せな夢の中だったから、彼のつぶやきなんて聞くこともなく。

年下の可愛い男の子が、実は執着心が強く計算高い男だと知ったの

は、バージンロードを歩いた後だった。

(後書き)

こんな彼氏がいたらいいなあ、という欲のままに勢いで書いてしまいました。感想いただけたら喜びます。あ、批判は心の内にとどめてくれるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0762n/>

誰のモノ？

2011年1月18日21時24分発行